

四国地方版

徳島

徳島大学から海外留学の成果

泌尿器科医の選択肢

For Next Uro-Generation

泌尿器科で扱う疾患は、尿路腫瘍性疾患、尿路感染症、排尿機能障害、内分泌疾患、不妊症、男性性機能障害、腎移植など多岐にわたります。それに伴い、泌尿器科医としての働き方には、ロボット手術などの最新医療に関わり続ける、クリニックなどでの外来診療を中心

泌尿器科医と基礎研究

私は、臨床医として9年間働

いた後に、徳島大学内の基礎医学研究室で腎細胞癌についての研究を始めることになりました。同年代の基礎研究に従事されている人は、すでに多くの経験と実績があり、その方々にお世話になり苦労しながら研究を進めました。研究開始の時点で私が唯一持っていたアドバンテージは、臨床経験があるということでした。臨床の現場で働くことで、現在直面している克服すべき問題に気づくことがあります。この問題に気づくことは、基礎研究のみを行っている研究者には困難です。そして、このことは、留学してからの研究に生かされることになりました。

海外留学での研究

徳島大学での基礎研究がひと段落した後、シンガポールのDuke-NUSへ留学しました。そこで私に与えられたテーマは、癌悪液質でした。癌悪液質は、

多くの癌患者に共通して認められ、その予後や生活の質に深く関わる病態です。しかし、多数の因子が複雑に関わっている病態であり、現時点では有効な治療法はありません。当初、英語のあまり得意でない私には、正直言って重い課題だと思っていました。しかし、この研究には、臨床医としての知識と視点が不可欠であり、これらを持っていたことが研究室でも重宝され、*supportive medicine*の筆頭著者という大きな業績をあげることにつながりました。

海外留学（プライベート）

もちろん、海外留学の醍醐味は、日本で臨床医として働いているだけでは得られない体験や経験をえられることにあります。シンガポールは、積極的に他の国から優秀な人材や企業を集めている国です。実際、私の所属していた研究室にも多くの国から研究者が集まっており、異文化交流はうってつけの場所でした。また、ご存じのとおりシンガポールは東南アジアのハブとしての役割を担っており、日本からはなかなか行くことのできない各国への海外旅行なども気軽に楽しむことができました。

ました。一方で、シンガポールには日本企業も多く進出しており、それに伴い大きな日本人コミュニティが形成されています。私は、日本人のサッカーチームの活動に参加し、毎週日曜日に家族で汗を流すという非常に健康的な生活を送るとともに、医師として働いていると触れ合うことのない建設業、製造業、金融業等の様々な業種で働く方々との交流もでき、非常に楽しい時間を過ごすことができました。



再び臨床へ

これらの経験を経て、現在私は再び臨床医として働いております。そして、今、基礎研究および海外留学を通じて得た知識や経験は、研究だけで

なく、疾患に対する知識を整理することや、治療の背景にあるメカニズムの理解を容易にするなど、臨床に戻っても大きなアドバンテージになることを感じております。泌尿器科では、広範囲の疾患を扱うことでバラエティーに富んだ働き方ができるとともに、知的好奇心を満たす素材もたくさんあります。興味があ

（徳島大学 布川朋也）



四国地方版

香川

For Next Uro-Generation

少数精鋭で癌治療

香川大学泌尿器科の近況

香川大学泌尿器科は医局員の数こそ12名と決して多くはないですが、少数精鋭で研究に診療に教育に、充実した毎日を送っております。当科のメインテーマは泌尿器科癌の集学的治療です。中でも前立腺癌に対するロボット支援下手術、IMRTを用いた外照射療法、そして密封小線源治療と、根治療法の実施できる県下唯一の施設

設として患者さんファーストをモットーに診療しております。腎癌の領域では、ロボット支援下腎部分切除術が平成28年4月から保険適応になり、当院でもますます症例が増加しています。

膀胱同時移植可能施設

もう一つの診療のメインテーマは腎移植です。症例数は年間5-10例程度とけつして多くはありませんが、人口当たりの移植数では香川県は国内で上位にランクされます。さらに当院は四国で唯一の膀胱同時移植可能施設でもあります。今年も県内

3例目となる膀胱同時移植を施行することができ、県内の移植施設の1つとして大きな役割を果たしていると感じています。

その他の専門領域

そのほか小児泌尿器科、女性泌尿器科などの専門外来も開設しており、悪性腫瘍、腎移植だけではなく、他の専門領域においても充実した診療を行っています。

学生教育

また学生の教育にも力を入れています。臨床実習にやってくる5、6年生の実習の指導はもとより、毎月学生と懇親会を開催して好評を得ております。泌尿器科の魅力、本当の面白さについて、膝をつき合わせてアピールし

ています。

明るい新病棟に移転

現在、平成23年から始まった病院再開発整備事業のまっただ中です。われわれ泌尿器科は平成28年の4月に改築した新病棟に移りました。真新しく明るい病棟で、心機一転新たな気持ちで診療に臨んでおります。手術室も増築され、ロボット支援下手術も今までとはちがひ、非常に広い部屋で快適にやらせてもらっております。

高齢化社会に向けて

このように泌尿器科は内科的および外科的要素を含み、また男女を問わず小児から高齢者までと診療内容はきわめて多彩です。これからの超高齢社会に向けて、泌尿器科ほど重要

な診療科はありません。今後われわれは足下を固めつつもさらなる高みをめざして日夜努力続けていきます。これからの香川大学泌尿器科にご期待下さい。(香川大学・上田修史)



四国地方版

高知

高知大学泌尿器科の関連病院

高知大学泌尿器科の関連病院は、主に高知県内にあり、四国の太平洋側に幅広く位置する高知県のほぼ全域の医療を担っています。そのうち協力型臨床研修病院としては、以下の病院があります。

- ・社会医療法人近森会 近森病院
- ・独立行政法人国立病院機構高知病院
- ・高知県立幡多けんみん病院
- ・高知県立あき総合病院
- ・土佐市立土佐市民病院
- ・医療法人川村会くぼかわ病院

今回は、これら関連病院のうち、泌尿器科常勤医が3名以上勤務する近森病院、国立高知病院、幡多けんみん病院を紹介いたします。これら3施設は、ともに日本泌尿器科学会

近森病院

近森病院は、男（救命救急センター）を持つ病院の性格上、尿路性器外傷や膀胱タンポナーデなどの泌尿器科救急患者や、地域連携室経由の尿路感染症（尿路性敗血症）や尿路結石症（ESWL目的）などの紹介患者が多いのが最大の特徴です。また関連施設として、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院や精神科を中心とした近森病院第二分院があるため、脳脊髄神経・精神疾患を基礎疾患に持つ患者さんの排尿管理が多いのも特徴の一つです。特に、尿路結石の患者さんの増加に伴い、手術用内視鏡の全面的更新やレーザー砕石装置の購入で、これまでの硬性尿管鏡によるTUL（経尿道的

尿路結石除去術）に加え、軟性尿管鏡によるe-TUL、また、TUL（経皮的尿路結石除去術）を組み合わせたTAP（TUL assisted PNL）も施行可能となり、良好な成績を残しています。



国立高知病院

国立高知病院は、我々の関連病院の中で癌の手術を最も積極的に行なっている病院の一つです。腎癌、腎盂尿管癌に対しては、腹腔鏡手術を行なっていますが、平成28年9月より泌尿器腹腔鏡技術認定医が常勤で赴任したため、腎癌に対する腎部分切除術も可能になりました。膀胱癌は、経尿道的手術（TURBT）を中心に行なっていますが、浸潤癌の場合は、膀胱全摘除術および各種尿路変更術を行なっています。膀胱全摘除術も現在は

腹腔鏡手術が可能になりました。前立腺癌は、これまでは小切開（開腹手術）で行なっていました。これも腹腔鏡下前立腺全摘除術（RP）が可能になりました。癌以外の手術では、前立腺肥大症に対するバイポーラ電極を用いた内視鏡的切除・蒸散・核出（TURis・TURis-v・TURB）を行なっています。尿路結石症に対しては、ESWLやTULを、また、重度の腹圧性尿失禁に対するスリング手術も積極的に行なっています。その他、慢性腎臓病（CKD）については、内科と協力して積極的に栄養指導や薬物療法を行なっています。末期腎不全患者さんには、血液透析あるいは腹膜透析の準備と導入を行なっています。もちろん、シャント手術や腹膜透析用カテーテル挿入術も行なっています。



幡多けんみん病院

幡多けんみん病院は、高知県西部の中核病院で、地域で完結できる良質な医療の提供

を目指しています。小児先天性疾患（停留精巣、陰嚢水腫、膀胱尿管逆流症、尿道下裂など）から悪性腫瘍（前立腺癌、膀胱癌、腎細胞癌など）まで幅広く治療を行なっています。特に、小児泌尿器科疾患について積極的に手術を行なっています。また、幡多けんみん病院も現在は泌尿器腹腔鏡技術認定医が常勤で赴任しており、主に悪性腫瘍に対して腹腔鏡手術が可能です。このように関連病院それぞれに特徴があり、研修医の要



望に応じた研修を受けることができます。興味のある方はいつでもご連絡下さい。医局員一同お待ちしております。（高知大学 蘆田真吾）

四国地方版

愛媛

雑賀隆史教授就任

ロボット支援手術

平成28年6月より愛媛大学泌尿器科学教授に雑賀隆史先生が就任されました。雑賀先生の専門分野の一つにロボット支援手術が挙げられ、これまで

に数多くの症例を執刀及び指導をされています。このため、ロボット手術時のきめ細やかなアドバイスや雑賀教授に受けることにより医局員は安全で確実な操作はもちろん高リスク前立腺癌に対する拡

大摘除及び拡大リンパ節廓清等の高度な技術レベルも習得することが可能になり日々努力しています。ロボット手術件数も増加の一途を辿り、現在は1日2例のロボット手術を行っています。



3次元画像解析システムの導入

今年より保険適応となつ

たロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術ではコンソール内の術者画面上において超音波画像、3次元画像解析システムSYNAPSE VINCENTにて作成した画像を確認しながら切除ラインを決定し安全で確実な手術が遂行できるように心がけています。

透析医療と腎移植

植前の透析のみならず症例に応じては血漿交換も含めた血液浄化療法も併せて施行しています。愛媛大学病院では通常の維持透析とは異なり当院での専門治療を必要とする患者がほとんどであるため、火曜夕方に週1回の腎臓内科も含めた透析カ

愛媛大学泌尿器科では透析治療部も担当しています。外来維持透析は基本的には行っており、主として当院にて手術や治療を行う慢性透析患者さんを対象としています。昨今の透析患者の増加に伴い当院での治療が必要な患者さんや新規透析導入が必要な患者さんも増加しているため本年度より透析装置を5台から1台増台致しました。当科での主要治療である腎移植に関しても移



若手育成の強化

雑賀教授は就任時より今後の若手育成に特に重点を置いており、研修プログラム中での一般的な泌尿器科手技につき研鑽した後は興味のあるサブスペシャリティや大学院にての基礎研究、更に国内及び海外留学も視野にいたれた多様性に満ちた魅力的な道筋を提供できるような環境を整えています。医学生や臨床研修医に対しては、泌尿器科の楽しさや奥深さを理解してもらうために定期的に懇親会や医局でのランチ等と共に食事をしながら意見交換を出来る場を提供しています。興味のある方は是非一報よろしく願います。
(愛媛大学・菊川忠彦)